



# ★七夕の里★ おごおり



夢織りなす、  
七夕伝説

小郡市中央を南北に流れる宝満川、そして、その両岸に建てられた七夕神社と老松宮。この地形は、天の川に隔てられ、年に1度、七夕の夜に出会う織姫と牽牛(彦星)の天上の物語を地上に配したようになっています。

七夕神社・老松宮の存在、宝満川と両神社の地形が中国で七夕伝説の発祥地といわれている漢水周辺の地形に酷似していることから、日本でも早い時期に七夕伝説が根付いた地域であるといわれています。



# 七夕の里おごおり にちなんだ お祭り

## 七夕神社の夏祭り



毎年8月7日に行われる七夕神社の夏祭り。子どもみこしや獅子が各氏子宅(大崎区)を回る伝統行事も行われています。

境内には、七夕飾りや祭り提灯、全国から寄せられた色とりどりの短冊が笹竹に飾り付けられます。また、多くの夜店が並び、特設ステージで、多彩な演芸が催され夏の夜のひとときを楽しむことができます。



## 七夕神社(媛社神社)

地元では親しみを込めて「七夕さん」と呼ばれており、その歴史は古く、8世紀頃に記された「肥前国風土記」に登場します。

七夕神社には、織女神(織姫)がまつられています。機織りの技術を身に付けた方であるとい伝えられ、女性の信仰を集めた神であるとされています。

毎年8月7日には夏祭りが開催され、当日は全国各地から願いが込められた約30万枚の短冊が飾り付けられ、多くの人で賑わいます。



## 小郡市民まつり



年に一度行われる小郡市民まつりは出逢いとめぐり逢い「七夕の里おごおり」を象徴する夏の風物詩となっています。

駅前的大通りには多くの屋台が立ち並び、その先には野外ステージが設けられ、織姫と彦星の七夕伝説など、たくさんのイベントが行われます。



## 老松宮(牽牛社)

「七夕神社」から宝満川をはさむ対岸にかつて「牽牛社」が建立されていました。牽牛・織姫が天の川に隔てられ、年に一度、七夕の夜に出会うという故事にちなんで建立されたと思われ、西暦1200年～1300年の鎌倉時代に建てられたとの説もあります。現在、牽牛社は老松宮に移され合祀されています。

老松宮には、犬飼神(牽牛)がまつられています。

